

昌平エジプト考古学会紀要 第0号

The Journal of
SHOUHEI Egyptian Archaeological Association
Vol.0



東日本国際大学昌平エジプト考古学会

SHOUHEI Egyptian Archaeological Association
Higashi Nippon International University

2015

昌平エジプト考古学会紀要 第0号 2015年

The Journal of SHOUHEI Egyptian Archaeological Association,
Higashi Nippon International University, Vol.0, 2015

目次

〈巻頭言〉	緑川浩司	2
〈設立趣旨〉		
東日本国際大学エジプト考古学研究所 設立趣旨	吉村作治	3
〈研究員の略歴〉		
東日本国際大学エジプト考古学研究所 研究員の略歴		4
〈東日本国際大学エジプト考古学研究所規定〉		16
〈昌平エジプト考古学会会則〉		17
〈昌平エジプト考古学会紀要 投稿規定〉		19
〈編集後記〉	吉村作治	21

巻頭言

儒学の基となっています論語には学問をする意義が多くちりばめられていますが、その中でも「子曰、温故而知新、可以為師矣。(為政篇)」という一文があります。意味は「昔の事実や人の考えを知ることは新しい考え方ややり方を知るには大切な手段です」、すなわち「過去を学ぶことは未来を考えるためには不可欠なことです」という意味です。よって人類の歴史にとって古代エジプト文明は古代の人々の知識や知恵、そして技術の起源を知る上で重要なことです。そういった点でエジプト考古学の調査・研究がこのいわき市の地で行えることになったのは、私達いわきの人々にとってとても良いことなのです。いわきの地からエジプトや中東、アフリカの調査・研究をする人が一人でも増えることを祈って、一人でも多くこの紀要に投稿いただけることを願っています。

緑川 浩司

昌平エジプト考古学会 会長
学校法人昌平巖 理事長

設立趣旨

東日本国際大学エジプト考古学研究所 設立趣旨

東日本国際大学にエジプト考古学研究所を設立する意味は、日本のエジプト考古学研究調査の灯を絶やさないということが第一義です。次に、本学東日本国際大学に新しい研究調査の芽を作り、若手研究者を育成することが第二義です。そして、第三義は、1966年から約半世紀に渡って育成してきた若手研究者の更なる研究調査の発展です。

日本のエジプト考古学は、1966年早稲田大学で始まりました。その後、約半世紀に渡ってエジプト現地での調査によって数々の発見を行い、世界的にも認められてきました。

しかるに吉村作治が早稲田大学を退職してから、早稲田大学のエジプト考古学は停滞し、且つ育成した若手研究者の活動は低迷しています。文部科学省の科学研究費を取得しても研究の場が与えられないくらいになりました。また、日本の大学はエジプト考古学を受け入れる素地がありません。

そういう中、吉村作治は東日本国際大学に籍を置くことが出来たので、ここに若手研究者を結集し、日本のエジプト考古学の復活をはかろうとするものです。

現在の候補者の半分は、科学研究費を取得しておりますし、残りの者も取得する可能性が高いのです。

また、本学にエジプト考古学研究所が誕生し、2015年4月より吉村作治の「エジプト文明論」などの講座が出来ることにより、本学学生の中に文明観や考古学に興味をもつ学生が出て、調査隊員が出現することで、本学の教育の幅が出ることになると思いますので、本研究所を設立しました。

吉村 作治

東日本国際大学 学長
東日本国際大学エジプト考古学研究所 所長

東日本国際大学エジプト考古学研究所 研究員の略歴

《所長》

1. 氏名

吉村 作治 (YOSHIMURA Sakuji)

2. 学歴

1964年 早稲田大学第一文学部入学

1967年 エジプト、カイロ大学考古学研究所留学

1971年 早稲田大学第一文学部卒業

3. 学位

博士 (工学)

4. 職歴

1987年 早稲田大学人間科学部助教授

1996年 早稲田大学人間科学部教授

2004年 早稲田大学国際教養学部教授

2007年 サイバー大学初代学長・サイバー大学世界遺産学部教授就任

2014年 学校法人昌平饗東日本国際大学副学長・教授

2015年 学校法人昌平饗東日本国際大学学長

5. 主な研究テーマ

エジプト美術考古学、比較文明学、日本の祭り

6. 主な研究業績

吉村作治 (編著) 2013『エジプト、メンフィス・ネクロポリスの文化財保存面から見た遺跡整備計画の学際的研究報告集』第2号、早稲田大学エジプト学研究所。

Yoshimura, S. and Kurokochi, H. 2013 “Research report: Brief report of the project of the second boat of King Khufu”, in *Journal of Ancient Egyptian Interconnections* 5, pp.85-89.

Baba, M and Yoshimura, S. 2011 “Ritual Activities in Middle Kingdom Egypt: A View from Intact Tombs Discovered at Dahshur North,” in Barta, M. et al. (eds.), *Abusir and Saqqara in the Year 2010*, pp. 158-170.

吉村作治 (編著) 2011『エジプト、メンフィス・ネクロポリスの文化財保存面から見た遺跡整備計画の学際的研究報告集』第1号、早稲田大学エジプト学研究所。

吉村作治 2009『古代エジプト・クフ王「第1の船」の復原に関する研究』(学位請求論文)、汐文社。

Yoshimura, S. and Kawai, N. 2007 “A new early Old Kingdom layered stone structure at Northwest Saqqara: A preliminary report”, in M. Barta (ed.), *Old Kingdom Art and Archaeology*, Prague, pp.363-374.

Yoshimura, S., Kawai, N. and Kashiwagi, H. 2005 “A Sacred Hillside at Northwest Saqqara: A Preliminary Report on the Excavations 2001-2003”, *Mitteilungen des Deutschen Archäologischen Instituts, Abteilung Kairo*, vol.61, pp.357-398.

他多数

《客員教授》

1. 氏名

黒河内 宏昌 (KUROKOCHI Hiromasa)

2. 学歴

1982年 早稲田大学理工学部建築学科 卒業

1984年 早稲田大学大学院理工学研究科建設工学専攻博士前期課程修了

1987年 早稲田大学大学院理工学研究科建設工学専攻博士後期課程単位取得退学

3. 学位

修士 (工学)

4. 職歴

1987年～1990年 文化学院建築学科非常勤講師

1990年～1993年 早稲田大学理工学部助手

1993年～2006年 早稲田大学理工学総合研究センター客員講師 (専任扱い)

1993年～2000年 文化学院建築学科非常勤講師

1999年～2006年 武蔵野大学人間関係学部環境学科非常勤講師

2005年～2010年 早稲田大学創造理工学部建築学科非常勤講師

2007年～2010年 サイバー大学世界遺産学部准教授

2010年～2011年 サイバー大学世界遺産学部教授

2011年～ サイバー大学世界遺産学部客員教授

2011年～ NPO 法人太陽の船復原研究所教授

2014年～ 東日本国際大学エジプト考古学研究所客員教授

5. 主な研究テーマ

古代エジプト古王国時代の造船技術

6. 主な研究業績

黒河内宏昌、吉村作治、2015年、「2014年太陽の船プロジェクト活動報告」、『エジプト学研究』第21号、pp.5～18。

Yoshimura, S., Kurokochi, H., 2013, “Brief Report of the Project of the Second Boat of King Khufu”, *Journal of Ancient Egyptian Interconnections*, Vol.5, No.1.

Yoshimura, S., Kurokochi, H., 2013, “Ein Schiff für die Ewigkeit, Die bisherigen Forschungen am zweiten Boot des Königs Cheops”, *Sokar* Nr.25, Seite 6~17.

黒河内宏昌、2013年、「クフ王第2の船と第1の船の木製部材の比較」、『永遠に生きる:吉村作治先生古稀記念論集』、吉村作治先生古稀記念論文集編集委員会、中央公論美術出版、pp.153～162。

《客員教授》

1. 氏名

菊地 敬夫 (KIKUCHI Takao)

2. 学歴

1985年 早稲田大学第一文学部卒業

1990年 早稲田大学大学院文学研究科修士課程修了

1999年 早稲田大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学

1991年～1994年 エジプト・カイロ大学考古学部王朝期学科大学院留学

1994年～2002年 ドイツ・ハイデルベルク大学エジプト学研究所留学

3. 学位

修士 (文学)

4. 職歴

2002年～2007年 早稲田大学理工学総合研究センター客員講師 (専任扱い)

2002年～2014年 聖心女子大学文学部非常勤講師

2005年～2006年 早稲田大学文学学術院兼担講師

2007年～2013年 サイバー大学世界遺産学部准教授

2007年～ 早稲田大学エジプト学研究所招聘研究員

2014年～ ドイツ・ハイデルベルク大学エジプト学研究所客員研究員

2014年～ 東日本国際大学エジプト考古学研究所客員教授

5. 主な研究テーマ

古代エジプト宗教史、古代エジプト人の葬送思想、王家の谷の王墓と冥界の書

6. 主な研究業績

Kikuchi, T. 1996 “Graffiti Nr.3974-3982 aus dem Gebiet des Grabes Amenophis’ III. im Westtal der Könige”, in *Memnonia* 7, pp.163-184.

Kikuchi, T. 1997 “Das Graffito Nr.3981a und eine aus den Late Ramesside Letters bekannte Familie der Nekropolenschreiber”, in *Göttinger Miscellen* 160, pp.51-58.

Kikuchi, T. 2002 “Die Thebanische Nekropole der 21. Dynastie -Zum Wandel der Nekropole und zum Totenglauben der Ägypter-”, in *Mitteilungen des Deutschen Archäologischen Instituts Abteilung Kairo* 58, pp.343-371.

菊地敬夫 2013 「冥界における祭祀空間としてのトトメス3世王墓」、『永遠に生きる：吉村作治先生古稀記念論集』、吉村作治先生古稀記念論文編集委員会、中央公論美術出版、pp.135-151.

《客員教授》

1. 氏名

西本 真一 (NISHIMOTO Shinichi)

2. 学歴

1982年 早稲田大学理工学部卒業

1984年 早稲田大学大学院理工学研究科修士課程建設工学専攻修了

1987年 早稲田大学大学院理工学研究科建設工学専攻博士課程単位取得退学

3. 学位

博士（工学）

4. 職歴

1987年～1990年 早稲田大学理工学部建築学科助手

1990年～1991年 早稲田大学理工学研究科特別研究員

1991年～1992年 日本学術振興会特別研究員

1992年～1994年 早稲田大学理工学部専任講師

1994年～2007年 早稲田大学理工学部助教授

2007年～2012年 サイバー大学世界遺産学部教授

2012年～現在 サイバー大学世界遺産学部客員教授

2010年～現在 武蔵野大学環境学部環境学科非常勤講師

2014年～現在 東日本国際大学エジプト考古学研究所客員教授

2015年～現在 日本工業大学工学部建築学科教授

5. 主な研究テーマ

古代エジプト建築史、空間論

6. 主な研究業績

西本真一・縄田浩志（編）「サンゴ礁」、アラブなりわい生態系シリーズ第4巻、臨川書店、2015年。

西本真一「総論 X、2、建築と土木、古代前期の都市と建築：エジプト」、「3、古代後期の都市と建築：北アフリカの古代後期」、日本オリエント学会編『古代オリエント事典』、岩波書店、2004年、pp.185-90、195-97。

Shinichi Nishimoto, Sakuji Yoshimura, and Jiro Kondo, "Hieratic Inscriptions from the Quarry at Qurna: An Interim Report," *British Museum Studies in Ancient Egypt and Sudan* 1 (2002), The British Museum, pp. 20-31.

西本真一「ファラオの形象：エジプト建築調査ノート」、知の蔵書 21 シリーズ、淡交社、2002年。

《客員教授》

1. 氏名

柏木 裕之 (KASHIWAGI Hiroyuki)

2. 学歴

1985年 早稲田大学理工学部建築学科入学

1989年 早稲田大学理工学部建築学科卒業 工学士

1989年 早稲田大学大学院理工学研究科建設工学専攻建築学分野博士前期課程入学

1991年 早稲田大学大学院理工学研究科建設工学専攻建築学分野博士前期課程修了 工学修士

1991年 早稲田大学大学院理工学研究科建設工学専攻建築学分野博士後期課程入学

1994年 早稲田大学大学院理工学研究科建設工学専攻建築学分野博士後期課程単位取得満期退学

3. 学位

博士（建築学）

4. 職歴

2000年～2003年 武蔵野女子（現 武蔵野）大学短期大学部生活創造デザイン学科専任講師（）

2007年～2011年 サイバー大学世界遺産学部准教授

2011年～2013年 サイバー大学世界遺産学部教授

2014年～ 早稲田大学総合研究機構エジプト学研究所招聘研究員

2014年～ 東日本国際大学エジプト考古学研究所客員教授

2014年～ 東日本国際大学地域振興戦略研究所研究員

5. 主な研究テーマ

古代エジプト建築技術史、歴史的建造物の保存と再生

6. 主な研究業績

2001年 「世界宗教建築事典」（東京堂出版）共著

2002年 「ヴィジュアル版建築入門3 建築の構造」（彰国社）共著

2006年 「古代エジプト、カエムワセト王子の石造建造物に関する建築的研究」（博士学位請求論文）

2007年 「建築大百科事典」（朝倉書店）共著

《客員准教授》

1. 氏名

河合 望 (KAWAI Nozomu)

2. 学歴

1993年 早稲田大学大学院文学研究科史学（考古学）専攻修士課程修了

2006年 ジョーンズ・ホプキンス大学大学院近東学科博士課程修了 (Ph.D.)

3. 学位

Ph.D., 文学修士

4. 職歴

2000年～2001年 在エジプト米国エジプト調査センター特別研究員

2001年～2007年 早稲田大学エジプト学研究所客員研究員

2002年～2003年 国連教育科学文化機関（ユネスコ）・コンサルタント

2005年 ジョーンズ・ホプキンス大学非常勤講師

2006年～ 早稲田大学国際教養学部非常勤講師

2007年～ 早稲田大学文化構想学部非常勤講師

2007年～2012年 早稲田大学理工学術院総合研究所客員准教授（専任扱い）

2012年～2013年 筑波大学人文社会系非常勤講師

2013年～ 早稲田大学高等研究所准教授（任期付）

2014年～ 東日本国際大学エジプト考古学研究所客員准教授

2015年 カイロ・アメリカン大学人文社会学部エジプト学科客員教授

5. 主な研究テーマ

エジプト学、エジプト考古学、新王国時代の歴史と考古学

6. 主な研究業績

Kawai, N. 2006 *Studies in the Reign of Tutankhamun*, Ann Arbor: University Microform International.

河合 望 2012『ツタンカーメン 少年王の謎』、集英社新書。

Nozomu Kawai "Some Remarks on the Funerary Equipment from the tomb of Amenhotep III (KV 22)," in Creasman, P. P. (ed.) *Archaeological Research in the Valley of the Kings and Ancient Thebes* (Wilkinson Egyptology Series 1), Tucson: University of Arizona Egyptian Expedition, 2013, pp. 149-172.

Nozomu Kawai, "The Tomb of Isisnofret at Northwest Saqqara," In M. Bárta, F. Coppens, and J. Krejčí (eds.), *Abusir and Saqqara in the Year 2010*, Prague: Czech Institute of Egyptology, 2012, pp. 497-511.

Nozomu Kawai, "An early cult centre at Abusir-Saqqara? Recent discoveries at a rocky outcrop in north-west Saqqara." In R. F. Freedman and P. N. Fiske (eds.), *Egypt at its Origins 3: Proceedings of the Third International Conference "Origin of the State. Predynastic and Early Dynastic Egypt" London, 27th July – 1st August 2008*, Leuven: Peeters, 2011, pp. 801-830.

Nozomu Kawai, "Ay versus Horemheb: The Political Situation in the Late Eighteenth Dynasty Revisited." *Journal of Egyptian History* (Leiden: Brill), vol. 3, no. 2, 2010, pp. 261-292.

Nozomu Kawai, "Theban Tomb 46 and its owner, Ramose." in S. D'Auria (ed.), *Offering to the Discerning Eye: An Egyptological Medley in Honor of Jack A. Josephson*, Culture and History of the Ancient Near East, vol. 38, Brill: Leiden, 2010, pp. 209-216.

《客員准教授》

1. 氏名

馬場 匡浩 (BABA Masahiro)

2. 学歴

1997年 早稲田大学第二文学部卒業

2002年 早稲田大学大学院文学研究科修士課程修了

2006年 早稲田大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学

3. 学位

博士 (文学)

4. 職歴

2004年～2006年 早稲田大学文学学術院助手 (考古学)

2006年～2009年 独立行政法人日本学術振興会特別研究員 (PD)

2007年～2008年 英国カーディフ大学歴史考古学科客員研究員

2009年～2013年 早稲田大学総合研究機構エジプト学研究所次席研究員 (専任扱い)

2009年～ 早稲田大学文化構想学部非常勤講師

2009年～ 明治大学文学部兼任講師

2014年～ 早稲田大学文学学術院文化構想学部助教

5. 主な研究テーマ

エジプト考古学、先史考古学、古代国家形成論

6. 主な研究業績

馬場匡浩 2014 「エジプトの王墓」『アジアの王墓』アジア考古学四学会 (編)、高志書院、193-215 頁

馬場匡浩 2013 『エジプト先王朝時代の土器研究』、六一書房

馬場匡浩 2010 「精製土器と粗製土器：胎土分析からみたエジプト先王朝時代の土器製作」『比較考古学の新天地』
菊池徹夫 (編)、同成社、1076-1087 頁

馬場匡浩 2006 「エジプト先王朝時代のビールづくり」『生業の考古学』藤本強 (編)、同成社、306-321 頁

M. Baba and S. Yoshimura, 2010, "Dahshur North: intact Middle and New Kingdom Coffins", *Egyptian Archaeology* 37, pp.9-12.

M. Baba, 2009, "Pottery production at Hierakonpolis during the Naqada II period: Toward a reconstruction of the firing technique", *British Museum Studies in Ancient Egypt and Sudan* 13, pp.1-24, November 2009.

M. Baba, 2007, "Pottery Making Tools- Worked Sherds from HK11C B4, Hierakonpolis-", *Egypt at its Origins 2. Proceedings of the International Conference*, Peeters, pp.7-20.

《客員講師》

1. 氏名

岩出 まゆみ (IWAIDE Mayumi)

2. 学歴

1977年 早稲田大学第一文学部入学

1981年 早稲田大学第一文学部西洋史専修卒業

3. 学位

学士 (西洋史)

4. 職歴

1981年～1985年 株式会社エトワール海渡

1985年～1988年 株式会社システムアート

1989年～2000年 早稲田大学古代エジプト調査室嘱託

1994年～ 株式会社アケト創業

2000年～2010年 早稲田大学エジプト学研究所客員研究員

2010年～ 早稲田大学エジプト学研究所招聘研究員

2014年～ 東日本国際大学エジプト考古学研究所客員講師

5. 主な研究テーマ

エジプト考古学、古代エジプト女性史、生活博物誌

6. 主な研究業績

・著作

1982年「ファラオの眠る谷」(NTV出版)共著

1991年「考古学は好奇心を満足させる知的ゲーム」『私が聴いた名講義』(一季出版)

1997年「エジプト美の起源～カイロ博物館入門」(小学館)共著

1999年「ウィーン美術史美術館所蔵古代エジプト展図録」(TBS)共著

2005年「古代エジプトを知る事典」(東京堂出版)共著

2006年「吉村作治の早大エジプト発掘40年展図録」(RKB)共著

2011年「古代エジプトの秘宝～世界の博物館を訪ねて」(ポニーキャニオン)

2014年「ピラミッド時代の人々の生活」『世界史人別冊ピラミッド5000年興亡の謎』(KKベストセラーズ)

1993年「早稲田大学エジプト学研究活動報告」第1号～13号(早稲田大学エジプト学会)

・報告

1993年～2005年「早稲田大学エジプト学研究活動報告」第1号～13号(早稲田大学エジプト学会)

《客員講師》

1. 氏名

西坂 朗子 (NISHISAKA Akiko)

2. 学歴

2003年 早稲田大学第一文学部卒業

2005年 早稲田大学大学院文学研究科修士課程修了

2010年 早稲田大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学

2014年 ユニバンティ・カレッジ・ロンドン・考古学研究所修士課程修了

3. 学位

修士 (文学)

修士 (Principles in Conservation)

4. 職歴

2006年～2007年 日本サイバー教育研究所研究員

2006年～ 早稲田大学エジプト学研究所招聘研究員

2007年～2010年 サイバー大学世界遺産学部助教

2010年～2011年 サイバー大学世界遺産学部客員講師

2010年～2012年 ユネスコ短期コンサルタント

2012年～2013年 青山学院大学非常勤講師

2011年～2013年 NPO 法人 e- コンテンツ研究所研究員

2014年～ 東日本国際大学エジプト考古学研究所客員講師

2014年～ NPO 法人太陽の船復原研究所、太陽の船復原プロジェクト委託専門家

5. 主な研究テーマ

壁画の保存修復、文化遺産学

6. 主な研究業績

Nishisaka, A., Takahashi, K., Yoshimura, S. 2015 “Conservation Work in the Tomb of Amenophis III, 2011-2012 season”, in *Current Researches in Egyptology 2014, Proceedings of the Fifteenth Annual Symposium, Ancient Egypt in a Global World*, University College London & King's College London, pp.29-38.

Nishisaka, A. 2015 *History of Restoration and Conservation of the ancient Egyptian Wall Paintings in the Museums*, Dissertation submitted in partial fulfillment of the requirements for the degree of MA in Principles of Conservation of Institute of Archaeology, University College London in 2014. (unpublished)

「第3期アメンヘテプ3世王墓壁画保存修復プロジェクト概報」『エジプト学研究』第19号、早稲田大学エジプト学会、pp.43-58

「アメンヘテプ3世王墓壁画に使用された顔料の化学分析」『エジプト学研究』第19号、早稲田大学エジプト学会 pp.59-98

「アメンヘテプ3世の石棺蓋の保存修復作業概報」『エジプト学研究』第19号、早稲田大学エジプト学会、pp.97-106

《客員講師》

1. 氏名

山下 弘訓 (YAMASHITA Hirokuni)

2. 学歴

1997年 九州大学文学部考古学専攻卒業

1999年 早稲田大学文学研究科修士課程考古学専修入学

2002年 早稲田大学文学研究科修士課程考古学専修修了

2002年 早稲田大学文学研究科博士後期課程考古学専修入学

2007年 早稲田大学文学研究科博士後期課程考古学専修単位取得退学

3. 学位

修士 (文学)

4. 職歴

2007年 サイバー大学世界遺産学部助教

2010年 サイバー大学客員講師

2011年 NPO 法人 e- コンテンツ研究所研究員

2014年 東日本国際大学エジプト考古学研究所客員講師

2015年 東日本国際大学地域振興戦略研究所研究員

5. 主な研究テーマ

エジプト考古学

6. 主な研究業績

2009年 「クフ王「第2の太陽の船」調査概報1：モニタリングと温湿度調査」『エジプト学研究』第15号、pp.5-11、共著

2013年 「古王国時代の造船レリーフについて」『吉村作治先生古稀記念論文集 永遠に生きる～Eternal Life～』pp.565-577

2014年 「介護従事者のための「実務者研修eラーニング教材」開発」『平成25年度文部科学省委託事業「成長分野等における中核的専門人材育成の戦略的推進事業－介護分野における中核的専門人材の量的拡大ならびに質的向上成果報告書』、pp.68-89

《客員講師》

1. 氏名

矢澤 健 (YAZAWA Ken)

2. 学歴

2003年 早稲田大学第一文学部卒業

2005年 早稲田大学大学院文学研究科修士課程修了

2010年 早稲田大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学

3. 学位

修士 (文学)

4. 職歴

2007年～2011年 サイバー大学世界遺産学部助手

2010年～ 早稲田大学エジプト学研究所招聘研究員

2011年～ NPO 法人 e- コンテンツ研究所研究員

2012年～2013年 立正大学文学部非常勤講師

2014年～ 東日本国際大学エジプト考古学研究所客員講師

2015年～ 東日本国際大学地域振興戦略研究所研究員

5. 主な研究テーマ

古代エジプト中王国時代の供物奉獻祭祀、葬制

6. 主な研究業績

Baba, M. and Yazawa, K. 2015 "Burial Assemblages of the Late Middle Kingdom Shaft-tombs in Dahshur North", in Miniaci, G and Grajetzki, W. (eds), *The World of Middle Kingdom Egypt (2000-1550 BC)*, London, pp.1-24.

矢澤健 2014「エジプト中王国時代のミニチュア土器使用に見られる「単位」について」、『西アジア考古学』、第15号、pp.23-46.

矢澤健 2013「エジプト中王国時代のファウンデーション・デポジットのミニチュア土器について」、『永遠に生きる：吉村作治先生古稀記念論集』、吉村作治先生古稀記念論文集編集委員会、中央公論美術出版、pp.539-552.

Kawai, N., Takahashi, K. and Yazawa, K. 2012 "Middle Kingdom Pottery from the Waseda University Excavations at North-west Saqqara 2001-2003", in Schiestl, R. and Seiler, A. (eds.), *Handbook of the Pottery of the Egyptian Middle Kingdom, Volume II: The Regional Volume*, Vienna, pp.147-160.

《客員助教》

1. 氏名

高橋 寿光 (TAKAHASHI Kazumitsu)

2. 学歴

2001年 早稲田大学第一文学部卒業

2005年 早稲田大学大学院文学研究科修士課程修了

2008年 早稲田大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学

3. 学位

修士 (文学)

4. 職歴

2005年～2008年 日本学術振興会特別研究員

2008年～2009年 早稲田大学エジプト学研究所客員研究助手

2009年～2011年 早稲田大学エジプト学研究所研究助手

2011年～2013年 早稲田大学エジプト学研究所客員次席研究員

2013年 早稲田大学文化構想学部非常勤講師

2013年～ NPO 法人太陽の船復原研究所研究員

2014年～ 早稲田大学エジプト学研究所招聘研究員

2014年～ 東日本国際大学エジプト考古学研究所客員講師

5. 主な研究テーマ

古代エジプトの土器

6. 主な研究業績

高橋寿光 2013 「青色彩文土器の破壊の意味について」、『永遠に生きる：吉村作治先生古稀記念論集』、吉村作治先生古稀記念論文集編集委員会、中央公論美術出版、pp.305-313.

Kawai, N., Takahashi, K. and Yazawa, K. 2012 “Middle Kingdom Pottery from the Waseda University Excavations at North-west Saqqara 2001-2003”, in Schiestl, R. and Seiler, A. (eds.), *Handbook of the Pottery of the Egyptian Middle Kingdom, Volume II: The Regional Volume*, Vienna, pp.147-160.

Takahashi, K. and Takamiya, I. 2011 “La céramique peinte en bleu égyptien du Nouvel Empire”, *Dossiers d'Archéologie* n°20, pp.52-53.

東日本国際大学エジプト考古学研究所規定

第1条 趣旨

本規定は東日本国際大学内にエジプト考古学研究所を設置し、運営管理の為の規定である。

第2条 組織及び構成員

1. 組織は東日本国際大学内にエジプト考古学の調査研究の為のものとし、その成果を学部生等の教育に反映し、学生参加型の研究組織とする。
2. 構成員は研究所長1名、副所長若干名、研究教員、特別研究員、事務局員とする。
3. 本組織の運営は研究所長、副所長、幹事研究教員によって立案し、書面にて理事長に報告し、理事会にて承認を受けるものとする。
4. 本組織の研究教員の職名は、教授、准教授、講師、助教、助手とし、専任又は客員の別は理事会に委ねる。
5. 構成員は文部科学省科学研究費、各種財団の研究費補助等を受けるべく申請する場合は幹事会にその旨の申請をし、承認を受けることとする。

第3条 事業内容

1. エジプト現地に於ける調査研究。
2. 1を大学授業に反映する。
3. 1の成果物を紀要等に発表する。
4. 1の成果を大学内で展示会等の広報活動をする。
5. 1に参加希望の学生で相当の能力を有す者を準隊員として参加させる。

第4条 会議

1. 研究教員会を年に4回開催する。
2. 研究所長は研究所として議決を必要とした場合、会議を招集し議決を行う。議決は出席研究教員の過半数とする。
3. 研究所は学校法人昌平覺理事長が必要と認めた場合、会議を招集する。

第5条 その他

1. 研究所の事務は大学事務局が行う。
2. 研究調査等の寄付は大学が受け入れ先となり、その後、研究所に事務経費を引いた後に納め、理事長名で研究費にあてる。
3. 研究教員の選定は別途学校法人昌平覺理事会が行うものとする。

昌平エジプト考古学会 会則

(名称)

1. 本学会は「昌平エジプト考古学会」(SHOUHEI Egyptian Archaeological Association) (以下本学会と略記する) と称す。

(趣旨)

2. 半世紀にわたって行われてきた日本に於ける古代エジプト研究は、吉村作治が東日本国際大学の学長に就任したことで、同大学がその中心的役割を担うことが期待されていた。そこで、同大学を中心に学会を発足し、今後の古代エジプト研究を推進し、後進を育成することが本学会の設立趣旨である。研究の成果を紀要や研究会、シンポジウム等を通して成果発表を行い、学術研究の進展のみならず、広く一般にエジプト文明の素晴らしさを伝えていくことを目指す。

(目的及び事業)

3. 本学会はエジプト学、エジプト考古学に関する研究推進を学術的な面から支援し、日本国内に限らず、アジア諸国のエジプト学、考古学研究に寄与することにある。
4. 本学会は上記の目的の為に以下の事業を行う。
 - ① 学術大会、研究会、研究発表会、講演会、調査報告会の開催及び支援を行う。
 - ② 紀要「昌平エジプト考古学」を発行するとともに、エジプト学、考古学の専門書、啓蒙書の刊行を行う。
 - ③ 研究成果や調査報告を web 上で公開するなど、成果の公開を行う。
 - ④ 研究や調査の公開のための展示会等を開催する。
 - ⑤ その他、本学会の目的を達成するために必要な事業を行う。

(会員)

5. 本学会の会員は正会員、準会員(学部の学生)、賛助会員、特別会員によって構成される。尚、入会、除会、退会は審査会によって、決定される。
 - ① 会員はエジプト学、考古学、美術など古代エジプト文化に関心を持ち、本会の趣旨に賛同する者とする。
 - ② 会員の資格は年齢、職業等を問わないが、公序良俗に反した行為を過去に行ったことがないことを条件とする。
 - ③ 会員は一般生活を営む上での人格を有していること、及び古代エジプト文明の研究や調査に関心を有する者であること。
 - ④ 準会員は、議決権は寄与されないものとする。
6. 本学会は会員に会費の納入を義務付けるものではない。本学会の名誉を傷つけるなど、本学会が損害を被った場合は、理事会の議を経て、除籍させることが出来る。また本人の意志で今後本学会会員を継続したくない場合は速やかに退会願いを会長に出し、退会手続きを行うこととする。

(役員)

7. 本学会には会長、筆頭理事、理事、幹事及び顧問、名誉理事を置く。

- ① 会長は本学会を代表し会務を統括する。
- ② 筆頭理事は会長を補佐する。
- ③ 理事は学会の運営を実質的に行い、懸案事項があれば、審議し、会長及び筆頭理事にはかる。
- ④ 幹事は理事のもと本学会の運営を行う。
- ⑤ 顧問、名誉理事は会長の要請によって理事会に出席し、諮問に応じる。

8. 本学会の役員の選出は以下によるものとする。

- ① 理事の定員は7名以内とする。その他に3名の会長が直接委嘱する者を置く。任期はいずれも5年とし、再任は妨げない。
- ② 会長は理事の互選によって選出されその任期は5年とし、再任は妨げない。
- ③ 監事は会長が任命し、理事会の承認を受けるものとする。
- ④ 幹事は5名以内とし、会長が任命し、理事会の承認を受けるものとする。
- ⑤ 顧問、名誉理事は人数には制限を設けず、会長本人の同意を得た上で任命し理事会の承認を受ける。

(会議)

9. 総会

- ① 幹事の長は毎年1回会長の承諾のもと、総会を招集し、その議長を務める。
- ② 臨時総会は会長及び筆頭理事が必要と認めた場合、招集するものとする。
- ③ 総会の議決は出席した正会員の過半数によって決する。

可否同数の場合は議長が決する。

10. 研究会、研究発表会、講演会、調査報告会等は、適宜本学会の役員の発案により行うものとする。

2015年4月

昌平エジプト考古学会紀要 投稿規定

1. 投稿者は本学会会員に限る。但し、本学会員が主たる共同執筆及び編集委員会から依頼した場合はその限りではない。
2. 投稿論文、研究ノート、フィールドノート、エッセイは未発表のものに限る。
3. 投稿の申込みは随時受け付ける。
4. 投稿原稿は論文、研究ノート、調査報告、資料紹介、書評、講演録、エッセイ等に区分する。
5. 論文、研究ノートに限り査読を行う。査読の結果、原稿の修正、再提出を求められることがある。
6. 投稿原稿は別に定める執筆要項に従うものとする。

<昌平エジプト学会紀要 執筆要項>

1. 投稿原稿は和英文により、横書き A4 にタイプする。和文原稿は横 40 字、縦 40 字、英文原稿は上下 30 mm の余白を取り、10 ポイント（半角 76 字）25 行とする。
2. 原稿枚数は、和文 3 万 2000 字（A4 20 枚）を限度として、図表、注、参考資料集もこの中に入れる。英文は A4 25 枚が目安。
3. 和文は外来語、国名、地名、人名等はカタカナ表記とする。必要に応じて原語を（ ）内に示す。
4. 数字は漢字表記にしなければならないものを除き、算用数字とする。
5. 節の構成は、Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ・・・とし、項や節は 1、2、3・・・とする。
6. 図表は別紙に書き、本文中に朱書きで挿入箇所を明記し、番号をふり、標題、出典を明記する。
7. 注記、引用文献、参考資料リストは一括して末尾に記す。
8. 注記や引用文献等の著者名はファーストネーム、ファミリーネームの順に記す。
9. 引用文献は、著者名、書名、出版社名、刊行年、引用ページの順とする。雑誌の場合は、巻号を必ず入れる。
10. 投稿原稿には、タイトルを付ける。
11. 論文、研究ノートには和文要旨（400～600 字）及び、英文アブストラクト（半角 76 字、10 行）を付ける。
12. 全ての著作物の著作権は本学会のものとし、著作者が使用する場合はその限りではない。
13. 提出要項
 - ①原稿データファイル（word ファイル、または、テキストファイル）
 - ②図版、写真、表（図版扱い）などスキャンして jpg 画像にしたもの
 - ③表（excel データ）はファイルで
 - ④レイアウト見本（本文中に図版、表などが入り組む場合）
 - ⑤ 1 ページサイズは縦 197mm × 横 134mm（キャプション領域含む）
自分でキャプションを図版に入れ込む場合は、ポイントサイズに注意。
 - ⑥原稿の枚数は 400 字詰換算で以下のようにする。
論文、研究ノート、報告、学会動向 : 40 枚以内
資料紹介 : 30 枚以内

書評 : 20 枚以内

短報 : 10 枚以内

原稿提出の際は 400 字詰換算で明記する。

- ⑦上の制限枚数の中には注及び参考文献を含める。
- ⑧図版は制限枚数には含めない。
- ⑨図版類には表題、通し番号を付し、出典のある場合は必ずその旨を明記する。
- ⑩投稿時には原稿データとともに図表を含む本文の PDF データと図表のデータを電子メールまたはデータ転送サービス等を用いて送る。
- ⑪論文、研究ノート、報告には英文アブストラクト（300 語以内、英文題名を添える）も提出する。

<注>以下の情報を原稿に添付する。

1 - 1. 原稿の和文タイトル

1 - 2. 名前（日本語）

1 - 3. 肩書き（日本語）

2 - 1. 原稿の英文タイトル

2 - 2. 名前（アルファベット）

2 - 3. 肩書き（英語表記）

3. 論文、研究ノートなどの場合は英文アブストラクトを必ず付ける。

4. 連絡先、メールアドレス

*原則として、初校、再校をお願いするが、誤字、脱字等での修正のみで、大幅な加筆、訂正、修正等は認めない。完全原稿でお願いする。

2015 年 7 月

編集後記

いわきの地にエジプト考古学をという私の強い想いは、決して早稲田大学を捨てたのではないのです。しかしひとつの学問の道は人についているものです。もちろん人には定年もあるし、老化もありまして、死もありますので、1人が永遠に一つのことをやりつづけることはできません。しかし昨今の早稲田の方向を見ていると、50年も続けてきた早稲田にとってはキラーコンテンツであるエジプト考古学を蔑ろにしているとしか思えません。私が故川村喜一先生とともに早稲田大学でエジプト考古学をはじめて50年、途中ではいろいろなことがありましたが、一年たりとも現地調査を欠かしたことがありません。なのにです。しかし嘆いても始まりません。幸い私は70歳になって学校法人昌平齋理事長緑川浩司先生と出会い、再びエジプト考古学に情熱を向けることができました。現在は私の弟子筋の約10名が東日本国際大学の中に作ったエジプト考古学研究所に所属し、エジプトでの調査・研究にあたっていますが、近い将来、私が現役でやっている間に本学からエジプト考古学を志す者が出ることを願っています。というわけで、本学会初の紀要を作りました。まず0号では研究員の紹介をし、1号から調査報告と研究ノートをどんどん発信していく予定です。

吉村 作治

東日本国際大学 学長
東日本国際大学エジプト考古学研究所 所長

昌平エジプト考古学会紀要 第0号
2015年8月1日発行

発行所 / 昌平エジプト考古学会
〒970-8023 福島県いわき市平鎌田寿金沢 37
東日本国際大学エジプト考古学研究所内
発行人 / 吉村作治

The Journal of SHOUHEI Egyptian Archaeological
Association Vol.0

Published date: 1 August 2015

Published by SHOUHEI Egyptian Archaeological Association,
Higashi Nippon International University
37, Suganezawa, Kamata, Taira, Iwaki, Fukushima, 970-8023,
Japan

© SHOUHEI Egyptian Archaeological Association